

Keep on challenging! Bonneville 2024

SMC CO. JP SUPER MINIMUM CHALLENGE PILOT / TAKUSHI CHIKAKANE Racing

SMC チーム

期間: 2024年3月4日18:00~4月12日23:00

クラウドファンディングに挑戦!

世界最小最速のマシンに

再びボン



ネビルで世界最速記録を!

※SMCチームはFIM.AMAの世界最速記録6冠チャンピオンです



日本の精密加工技術を結集してオートバイ世界最速記録6冠を達成!

はじめまして、スーパーミニマムチャレンジ(以下SMC)プロジェクトのライダー兼プロジェクトリーダーの近兼拓史と申します。私達は2018年以来、日本の精密微細金属加工業を中心とした30社と共に、メイド・イン・ジャパン製品の象徴とも言えるHONDAスーパーカブ系エンジンをベースにしたオリジナルマシンNSXシリーズで、世界最高峰の最高速チャレンジレース、ボンネビル・モーターサイクル・スピードトライアルズ(BMST)に出場し続けています。2018年には初出場ながらNSX-01(125cc)で125cc4スト横型エンジンクラスレコードと連続最多完走記録を達成。2019年には新型マシンNSX-02(125cc+ターボ)とNSX-51(50cc+スーパーチャージャー)を制作。2台のマシンで合計6つのFIM.AMA公認の世界最高速度記録を達成するという偉業を成し遂げました。しかし、そこからが悲劇の始まりでした…。



SMC 支援クラウドファンディングサイト
<https://readyfor.jp/projects/SMC2024>





2018年 NSX-01(クラスレコード達成)



2019年 NSX-51(世界記録3冠)



2019年 NSX-02(世界記録3冠)

6つの世界最速記録を達成、しかしそこから悲劇が始まった!

2020年更なる記録更新を目指しNSX-02とNSX-51を大幅改良して参戦準備を進めるも新型コロナウイルスの世界的蔓延で大会が開催中止。2021年はスタッフが渡米現地入りしながら、コロナによる海運の大混乱でマシンが到着せず走行不能。

心機一転2022年は、完全新型マシンを製作。カーボンカウルと新型フレームを新調、大幅に軽量化されたNSX-03とNSX-52で戦闘力を大幅アップ。しかし今まさに船にマシンを積み込もうという渡米直前に異常気象による大雨で、コースが冠水。大会中止となった。2023年、マシンもスタッフも早々にアメリカ入り。しかし大会直前に84年ぶりに南カリフォルニアに上陸したハリケーン・ヒラリーの影響で再びコースが冠水。BMST110年以上の歴史で初となる2年連続開催中止。SMCチームは、1000万円以上の費用を使いながら、何もできないまま無念の帰国となった。



2023年11月 NSX-52(世界記録更新)



2024年 NSX-52(50cc+スーパーチャージャー)



2024年 NSX-03(125cc+ターボ)

プロジェクト存続の危機から、世界最速記録更新! ボンネビル挑戦へ!

コロナと異常気象に阻まれた4年間で、SMCチームは数千万円の損失が生じ、プロジェクト費用は完全に枯渇。SMCチームは世界チャンピオンでありながら存続の危機に! 「走れさえすれば世界最速記録更新は確実!」と言われながら走る機会を得ることができませんでした。しかし2023年11月、関係者の皆様のご尽力で秋田県大湯村ソーラースポーツラインを3日間貸し切り、全長5kmの特設直線コースを設置。ボンネビルと同様光電管を用い、NHK他テレビ局のカメラの前で、非公認ながら世界最速記録を15km/h以上更新! 世界最速マシンの実力の一端を披露することができた。これを受け2024年8月のボンネビルにSMCチームを送り出そうとエールが沸き起っている。しかし、BMSTチャレンジには、マシンの輸送費、渡航費、現地滞在及び移動費、マシンのオーバーホール費用等、最低1000万円以上が必要。これはもはやSMCチームの限界を超えてしまいました。どうか皆さん、私たちSMCの世界最速記録更新への挑戦をご支援頂けませんでしょうか。

皆さんの応援でボンネビルに行かせて下さい!

ライバルにではなく、コロナと異常気象に阻まれた4年間ででした。

日本中のエンジニアが力を合わせて作ってくれたNSXの性能には絶対の自信を持っています。どうか皆さんの応援でボンネビルに送り出してください。

SMCプロジェクトリーダー兼ライダー 近兼拓史 <https://smc.co.jp>

